

令和六年度
座間市福祉推進作文・標語
入賞作品集

令和六年度座間市福祉推進作文・標語入賞作品集

目次

福祉推進作文

【小学校1・2年生の部 最優秀賞】

ゆめをあきらめない

ひばりが丘小学校2年 ^{かんざき}神寄 ^{うらら}心良 2

【小学校3・4年生の部 最優秀賞】

妊婦さんの宝物

東原小学校4年 ^{たにふじ}谷藤 ^{ゆな}優那 3

【小学校5・6年生の部 最優秀賞】

僕のSDGs

立野台小学校5年 ^{なかむら}中村 ^{ゆうま}裕麻 5

【中学生の部 最優秀賞】

福祉を身近に

東中学校2年 ^{かやま}華山 ^{あゆ}彩結 7

【小学校5・6年生の部 優秀賞】

ぼくのひいおばあちゃん

東原小学校6年 ^{かやま}加山 ^{しょう}翔 10

【小学校5・6年生の部 優秀賞】

私にとっての福祉

立野台小学校6年 ^{りゅうか}龍華 ^{さとし}佐俊 12

【中学生の部 優秀賞】

みんなの支え

座間中学校 1 年 ^{た だ}多田 ^{し ゆ え}朱笑14

【中学生の部 優秀賞】

小さな福祉に気づきたい

座間中学校 1 年 ^{や だ}矢田 ^{り ん た ろ う}凜太郎16

【小学校 1・2 年生の部 佳作】

ゆめをあきらめない

ひばりが丘小学校 2 年 ^{ふ く い}福井 ^{め い}芽衣18

【小学校 3・4 年生の部 佳作】

しょうがい者の気持ち

相武台東小学校 4 年 ^{つ の だ}角田 なつみ19

【小学校 3・4 年生の部 佳作】

だいじな点字ブロック

ひばりが丘小学校 3 年 ^{い の う え}井上 ^{ね お}チャモーディ音桜21

【小学校 3・4 年生の部 佳作】

わたしのひいおばあちゃん

ひばりが丘小学校 3 年 ^{ふ り は ら}振原 ^{し お り}汐里22

【小学校 3・4 年生の部 佳作】

でんしゃのできごと

東原小学校 3 年 ^{お お や}大矢 ^{ち ひ ろ}智尋23

【小学校3・4年生の部 佳作】

ユニバーサルデザインを知って

立野台小学校4年 ^{あさい}浅井 ^{あゆむ}歩夢.....24

【小学校5・6年生の部 佳作】

思いやりの心

座間小学校6年 ^{あなざわ}穴澤 ^{かえで}楓.....25

【小学校5・6年生の部 佳作】

ぼくや君の勇気が大きな力に

座間小学校6年 ^{おかもと}岡本 ^{あおば}碧羽.....27

【小学校5・6年生の部 佳作】

一人一人が思いやりをもつために

相模野小学校6年 ^{ながみね}長峰 ^{かずき}和毅.....29

【小学校5・6年生の部 佳作】

身近にある福祉の仕事

中原小学校6年 ^{たかはし}高橋 ^{りお}李緒.....30

【中学生の部 佳作】

今の気持ちは？

座間中学校1年 ^{しもだいら}下平 ^{ゆづき}結月.....32

【中学生の部 佳作】

みんなが幸せになるために

座間中学校1年 ^{なかじま}中島 ^{あいな}愛菜.....34

福祉推進標語

【最優秀賞】

たすけようより たすけあおうが ふくしかな

東原在住 レスコ ^{だん} 暖37

【優秀賞】

みんなとは くらべなくても いいんだよ

栗原小学校4年 ^{かつき} 香月 ^{ゆうが} 由我37

手助けしたい してほしい どちらもどうぞ 声かけて

入谷東在住 ^{いわもと} 岩本 ^{ゆみこ} 由美子37

【佳作】

手をかそう みんなを助ける きせきの手

ひばりが丘小学校4年 ^{せいけ} 清家 ^{そうすけ} 壮亮37

立ちあがる 勇気をくれた あなたの手

座間在住 ^{しみず} 清水 ^{たかし} 隆37

言葉かけ 広がり築く 福祉の輪

入谷東在住 ^{やました} 山下 ^{たかお} 孝雄37

人の気持ちを考える それは福祉の 第一歩

東原在住 ^{やまだ} 山田 ^{ちとせ} 千登勢37

※ 敬称略

※ 本文中の表記については、原文を尊重しています。

福祉推進作文

【小学校１・２年生の部 最優秀賞】

ゆめをあきらめない

ひばりが丘小学校２年 神寄 心良

わたしは、どうとくのじかんで大前さんという人の、話を読みました。大前さんは、じこにあって、左足をきらなければいけなくなったのに、ダンサーが好きで、好きで、しかたなくて、ダンサーをあきらめないで、オリンピックに、でたと言うことが、「すごいなあ。」と、思いました。

しかも、プロのダンサーになり、子どもたちに、ダンスをおしえていたことも、「すごいな。」と思いました。大前さんは、とてもとても、すごいと思います。じこで、左足がなくなってまで、ぎんのでつの足がわりみたいなもので、ダンサーつづけているし、ぼくという人に、そくてんができるなんて、すごい！と言ってあげたりして、大前さんはすごくやさしくて、つよい気もちをもってる、もちぬしだと思います。そして、人の前でも、ダンスを見せて、みんなを、しあわせにする人だと思います。わたしはおとなになったら学校の先生になりたいです。今、やってるスイエイも、あきらめたくないと思っています。がんばります。

【小学校3・4年生の部 最優秀賞】

妊婦さんの宝物

東原小学校4年 谷藤 優那

わたしは、電車で席があいていないとき、子ども連れの妊婦さんに席をゆずった時のことについて、書きます。

さがみ野駅に行くため電車の席にすわったとき赤ちゃん
と女の子の二人の子をつれた妊婦さんが電車に乗ってき
ました。そのころはもう席があいておらず立って外をながめ
ていました。しばらくすると、つかれたような声で、

「もう少しでお家だからね。」

とやさしくいいました。にもつを持ちながら子どもをかか
えてとても大変そうでした。その時に私は、声をかけまし
た。

「よかったらすわりますか。」

と。でも、もうしわけなさそうに

「大丈夫ですよ。」

とおたがいゆずりあいました。その時、妊婦さんは、

「じゃあおことばにあまえて。」

といいかけたとき、子どもたちが、

「お姉ちゃん優しいね。」

と元気な声が聞こえました。そのときわたしの気もちが花
畑にいるような気もちになりました。わたしが席をそろり
そろりといどうした時すわったのが妊婦さんではなく子ど
もでした。その時妊婦さんの顔がさっきより少しえがおに
なっていました。わたしは妊婦さんに、

「なぜ子どもにゆずりましたか。」

と問いかけると

「子どものえがおがなによりの宝ものだよ。」
と答えてくれました。

そのことから、自分がえがおになるのも大切だけど、おたがいがわらいあうと、しょたいめんでも優しくえがおになるということを学び、これから大切にしていきたいと思いました。

【小学校5・6年生の部 最優秀賞】

僕の SDGs

立野台小学校5年 中村 裕麻

ぼくは、SDGs の 3 番の「すべての人に健康と福祉を」というものにきょう味を持ちました。なぜなら、ぼくには大好きなおばあちゃんがいて福祉というテーマが身近に感じたからです。

そこで、ぼくに出来ることは何かを考えてみました。それは、大好きなおばあちゃんのお手伝いをする事だと思いました。

おばあちゃんは、車で一時間くらいの所に住んでいます。ぼくは、時間があればおばあちゃんに会いに行きます。おばあちゃん家に行ったときは、色々なお手伝いをします。

例えば、車を洗うのを手伝います。おばあちゃんがとどかない所や細かい所をぼくがやります。お花の水やりや手入れ、枝切りもやります。お風呂掃除は、天井をモップでゴシゴシみがきます。買物に行ったときは、カゴを持ったり、ふくろ詰めした荷物を一緒に持ちます。特に重たいものは、ぼくが持ちます。おばあちゃんはメダカを飼っているので、ぼくが行ったときはお水の入れかえを手伝います。

でも、一番は一緒にご飯を食べたりおしゃべりしたりすることです。どうしてかという、おばあちゃん一人ぐらしなので、ぼくがいると楽しいと言って喜んでくれます。それにぼくは、おばあちゃんの作るご飯が大好きでいっぱい食べます。そんなぼくを見ていると元気が出るよと言ってくれます。だから、これからもおばあちゃんを助けて、いっぱい元気になってもらいたいと思います。

これがぼくのできる SDGs の3番「すべての人に健康と福祉を」だと思います。

【中学生の部 最優秀賞】

福祉を身近に

東中学校 2 年 華山 彩結

皆さんは今、福祉を身近に感じていますか。

私は、学校で福祉学習や福祉体験を行いました。その中で福祉についての理解は深まりましたが、実際活動をしてみようと思うと、どんな事したら良いのか、難しく考えてしまいがちです。そこで、私達にも行える身近な福祉活動を考えてみました。その一つの例として「ヘアドネーション」というものを挙げたいと思います。

まず、皆さんはヘアドネーションを知っていますか。

ヘアドネーションとは、髪の毛という意味のヘアと寄付という意味のドネーションを組み合わせた言葉で、伸ばした髪の毛をウィッグの素材として小児がんなどの病気や事故によって髪を失った子供達のために、寄付をするボランティア活動です。

私が小学五年生の時、伯母がヘアドネーションについて教えてくれたことや、実際にヘアドネーションを行っていたことがきっかけでヘアドネーションの存在を知り、ヘアドネーションを行いました。その頃、私はヘアドネーションは髪の毛を寄付するだけ、私の髪の毛がウィッグとして売られるだけ、と思い込んでいました。

そして、再び髪を伸ばし始めて2年ほどたった中学一年生の時、母に

「またヘアドネーションをするの。」
と聞かれました。その時は空返事で

「うん」

と答えてしまいました。それからしばらくたって、姉が髪の毛を切る事になりました。切った髪の毛は三十一センチメートル以上あり、ヘアドネーションをするには十分な長さでした。ヘアドネーションをすれば良いのに。と心の中で思っていました。自分もヘアドネーションについて良く知らないのに人に勧めても良いのだろうか。と思いとどまってしまい、話すことができませんでした。

姉との事が心に引っかかり、改めてヘアドネーションについて調べることにしました。すると、ヘアドネーションを行って寄付された髪の毛は、ただウィッグになって売られるのではなく、私とも近い年齢の子供達に提供されるものだということがわかり、過去の自分を恥じると共に、姉にヘアドネーションを勧めなかったことを後悔しました。

ですが、私が髪の毛を寄付することで少しでも救われる人がいるのならと、もう一度ヘアドネーションをすることを決意しました。

本来なら切った後は捨てられてしまうはずの髪の毛が、ヘアドネーションを通して子供達の役に立っていると思うと嬉しくなりますし、知って良かったと思います。

ヘアドネーションは髪を伸ばすことこそ大変なものの、誰でも参加できる福祉活動です。更に髪の毛を寄付するだけでなく、シャンプーなどの寄付付きの商品を買うことで、「髪を切らないヘアドネーション」として支援をすることができそうです。

中学生の私には、大規模な福祉活動をすることはできませんが、身近な福祉活動について知ったり、福祉への理解を深めて小さな事から周りを支えていくことはできます。

様々な福祉活動をもっと身近に感じることが、誰もが幸せに暮らすために大切なことなのではないでしょうか。

【小学校5・6年生の部 優秀賞】

ぼくのひいおばあちゃん

東原小学校6年 加山 翔

ぼくには、今年92才になるひいおばあちゃんがあります。そのひいおばあちゃんは目が不自由です。今は、めがねをかけても物がはっきり見えず、視野もかけている状態です。最近では、ぼくの顔もはっきりわからないと言います。目の前に食事を置いても、「これ何」と聞きます。その時ぼくは、目の前にある食べ物について説明します。テレビを見ていても、人の顔がよくわからないので面白くないと言います。好きだった手芸も、できなくなってしまいました。今は、近くのケアプラザで、カラオケをするのがゆいいつの楽しみと言っています。

ぼくは、毎年夏休みに、ひいおばあちゃんの家泊まりに行っています。その時、いつも笑顔でぼくの話聞いてくれるやさしいひいおばあちゃんです。ぼくは、泊まりに行くと、ひいおばあちゃんのかたもみや、料理の手伝いをします。さんぽの時は、足元に気をつけて転ばないように横につきそいます。

ふとぼくは、ひいおばあちゃんのように目が不自由だったらと思い、目をつぶって歩いてみようとしたことがありました。けれど、こわくて2、3歩で目を開けてしまいました。ひいおばあちゃんは、いつもこのような状態で生活しているのに、一度もこわいとか、つらいと言った言葉を聞いたことがありません。そのようなひいおばあちゃんのことを、ぼくはすごいと思いました。

福祉とは、すべての人が幸せに生活するための取り組みのことと言われています。これからも、ぼくは、ひいおばあちゃんが元気に暮らせるように、お手伝いをしていきたいと思います。そして、身近なことから自分のできることを取り組んでいきたいと思います。

【小学校5・6年生の部 優秀賞】

私にとっての福祉

立野台小学校6年 龍華 佐俊

おじいちゃんとは遠く離れているので、毎日のように通話してつながっています。優しくて、遊びに来てくれたときはとても楽しいおじいちゃん。私はおじいちゃんが大好きです。

ところが最近、おじいちゃんとなぜか話しづらくなってきました。おじいちゃんに

「今日昼ご飯なんだった。」

と聞かれて、私が

「唐揚げだった。」

などと答えるのですが、おじいちゃんが

「何？もう一回言って。聞こえなかった。」

というので、うんざりしてしまいます。たまにおじいちゃんのことを責めてしまい、通話が終わると私は急に悲しくなってしまいます。おじいちゃんは何も悪いことをしていないからです。どうして大好きなおじいちゃんを責めてしまうのか…。

最も大きな原因は、話が伝わりにくいからです。そこで、私はどうしたらおじいちゃんに話が伝わるか考えて、「家族みんなでお遊び大作戦」を計画しました。これは、家族で遊んでみんなを笑顔にさせる作戦です。家族で遊園地に行ったり、流しそうめんやかかるた遊びで楽しんだりしました。この作戦は大成功で、家族みんなが笑顔になっていました。おじいちゃんも自然と笑顔になっていて、私が今ま

で見た中で一番の笑顔でした。言葉で表現できないとても素敵な笑顔でした。そんなおじいちゃん的笑容を見てぼくもとてもうれしくなりました。話が伝わらなくても心は伝わるんだなと思いました。これからもおじいちゃんと一緒に楽しい生活を送って行きたいです。

私は、この経験を生かして、身の回りの人など多くの人を笑顔にさせてあげたいと思っています。これが、私にとっての福祉です。

【中学生の部 優秀賞】

みんなの支え

座間中学校 1 年 多田 朱笑

私の家の近所には、高れい者の方が住んでいます。私が幼ない時から、いつも身のまわりで支えてくれた優しい方です。昔は、元気に外であいさつを交わしたり、話したりする事が多かったです。でも今は、目や足が不自由になり、外で会うことがとても少なくなりました。高れい者の方は、「外に出るのが怖くなってしまった」と言っていました。目や足が不自由だと外出も、簡単に出きないんだと分かりました。私は気軽に外出が出きる事が当たり前だと思っていましたが、このように困っている人が身近かに、いる事をあらためて知りました。なので、私の家族は、食材を買いに行ったり、少しでも支えになれるように生活をしています。最近、家族で、たけのこをほりに行きました。旬の野菜を食べてほしいと思い、調理したたけのこを、わたしました。そしたら、とても喜んでくれて、私もとても心が温かくなりました。だれかが喜んでくれると、うれしい気持ちになります。

高れい者の方は、体が不自由な事も困っているけれど、一人で家に居る事が、さびしいと言っていました。私はいつも家族が家にいて、一緒に食事をしたり、会話をしたり、楽しい時間を過ごす事が当たり前のようだけれども、もし自分が一人だったら どれだけさびしいのだろうと想像するだけで悲しい気持ちになります。高れい者の方の、さびしい時間をできるだけ少なくするために、あいさつをした

り、会いに行ったりして、みんなが楽しい時間を共有したいです。

私も幼い時から遊んでもらったり、物をもらったり、いろいろなところで、支えてもらいました。なので、次は私が、困っている事や、大変に感じている事を、手伝いたいと思います。もし私が高れい者の方の立場だったら、うれしいと思ったからです。料理や買い物に行けない時、だれかが、手伝ってくれたらうれしいです。一人でさびしい時、だれかが、そばにいてくれたら心が温まります。私はそう思いました。

私もいつか、としをとります。そうして、だれかに支えてもらうと思います。でも今は、私が助ける側だと思います。そうして社会につながっていきます。地域の交流も、だれかとの会話も、自然と心がほっこりしています。スロープや手すりを設置すること、介護の仕事をする事も、だれかが人を思いやる気持ちからできたものです。周りをよく見ると、だれかが、だれかを思いやる気持ちでいっぱいです。でも少し、欠けているところもあって、そこを、うめる事ができた時、みんなが幸せで暮らしやすい社会になると思いました。まずは、身近かなところから。周りを見ると、ほんのささいなところでも、困っている人がいると思います。私達は支えることができます。みんなで協力しましょう。

【中学生の部 優秀賞】

小さな福祉に気づきたい

座間中学校 1 年 矢田 凜太郎

みなさんは、福祉とは何だと思いますか？私は福祉とは障害のある人、お年よりの人の介護、病気になった人の治療・介護のことだと考えていて、自分は介護をする側だと思っていた。

しかし、福祉の対象となる人の共通点を「困っている」人という風に考えることができます。このような観点で福祉を見てみたら、私にも一度、「困っている」人になった経験があることに気づきました。六年生の終わり頃、私は右手の人さし指を骨折しました。それほど大きくはないけがでしたが、治るためには一ヶ月あまりの時間を要し、生活には大きな影響が出ていました。

まず、授業の面ではみんなと同じスピードで字を書くことができず、ノートを取るのも一苦勞でした。

また、私は運動が大好きです。それなのに、さらに悪化する可能性があるため、体育のときに行っていたサッカーにも参加することができず、どうしてこんなに元気なのに自分のやりたいことができないんだ・・・と悩んでいました。土日に行っている野球でもボールを投げることができず、チームメイトが練習している姿を片目に、ひたすら走ったり筋トレをしたりと、とても悔しい思いをしていました。

日常生活では、箸が持てず、ご飯を食べるのが遅くなってしまったり、荷物を持つときも、うまく力が入らず、落

としてしまったり、髪が洗いにくかったりしました。最初に思っていたよりもずっと地味に困ることがあったのです。

でも、そんな苦しい状況でも少しずつ、改善する方法が見えてきました。たとえば、ノートが取れないのならタブレットに打ち込めばいいし、かみが洗えないのなら、洗ってもらえばいい。給食の時間にはスプーンを持参して、早く食べられるようになりました。

私の怪我は、大きなものではなかったし、一生治らないものでもありません。でも、「困っている」という部分では、福祉の対象となる人と同じです。骨折をして、「困っている」立場になって、わかったことがありました。

一つは、福祉とは他人ごとではなくいつ自分が福祉を受ける側になるかわからないということです。だからこそ、困っている人に気づいて、進んで自分から助けることができるような人間に、私はなりたいと思います。

そして、助け方はひとつではないということもわかりました。不自由な手の代わりに、ものを持ってあげたり、髪を洗ってあげたりするだけが助ける方法ではありません。道具を使ったり、時間を延ばしたりすることで、助けてあげることでもあります。どうすれば自分でできるようになるか、どうすれば助けを必要としなくなるか、などと、自分でできるようにするための工夫を考えてあげることも、福祉の一つだと思います。

それにはまず、福祉に気づくことが大切です。困っていることに気づくことができれば、助けてあげることもできるし、考えてあげることもできます。わたしは、たくさんの小さな福祉に気付けるようになりたいです。

【小学校１・２年生の部 佳作】

ゆめをあきらめない

ひばりが丘小学校２年 福井 芽衣

わたしは、どうとくで大まえさんという人の話を読みました。

大まえさんは、じこで足をなくしてしまったのでダンスをしていた人です。

どんな人かっとうと、ダンスが、好きだった人です。どこがすごいととうと足をけがしても、いたくても、がんばっているから、すごいなって、おもいました。

じぶんだったら、いたくて、ステージに、でれないと、おもいました。

やってみたいことは、大まえさんのがんばりをよくひょうにして、くるしいことやりたいことがあっても、さいごまでがんばっていきたいです。

じぶんもチアが、好きだったのでやめないで、いろんな、わざを、おぼえて、いろんなことをできるためやめないでがんばります。

【小学校3・4年生の部 佳作】

しょうがい者の気持ち

相武台東小学校4年 角田 なつみ

わたしは、学校でし力しょうがいの人の動画を見ました。そして、わたしは、目をつぶってペアの人といっしょに自分のつくえまで行きました。ペアの人がサポートをしてくれても、暗くて不安で、けがをしないか心配でした。自分のつくえまで行くのがとても長い時間に感じました。わたしは、し力しょうがいの人は毎日こんなにこわくて、不安な気持ちになっているのかもしれないと思いました。

わたしは、学校で見た動画をふりかえってみました。し力しょうがいの人のためのかいせつ音せいや、耳が聞こえない人のための手話などいろいろなきのうがテレビのリモコンにありました。初めて見たきのうなのでおどろきました。ですが、目をつぶってかいせつ音せいをつけずに野球を見ました。おうえんの声しか聞こえませんでした。次は、かい説音せいをつけて聞いてみました。つけない時とはちがってとても楽しくて、分かりやすかったです。手話をしている番組では、ひょうじょうなどで意味がかわってしまうそうです。

わたしは、家でしょうがいの人について調べました。目が見えない、耳が聞こえない、話せないという人がたくさんいました。

わたしは、ためしにマンションから登校はん場所まで、目をつぶって行って見ました。車にひかれないか心配で、音が聞こえてても見えないのでとてもこわかったです。わ

たしは、とちゅうで目をあけてしまいました。

わたしは、しょうがい者がいたら助けようと思いました。

【小学校3・4年生の部 佳作】

だいじな点字ブロック

ひばりが丘小学校3年 井上 チャモーディ音桜

わたしは、ふくし作文を書くとき聞いた時にすぐ点字ブロックが思いうかびました。電車にのって、お出かけしている時に、点字ブロックの上を歩いていたら、お母さんに、「点字ブロックは、目のふ自由な人のためのだいじな目じるしなんだよ。」

と、教えてもらってビックリしたことあったからです。

わたしはずっと点字ブロックが気になっていたのので、調べてみることにしました。点字ブロックには2しゅるいあって、まっすぐな線のもの、丸がたくさんついているものがありました。まっすぐな線は、進む方向を知らせるいみがあって、丸がたくさんついている物はきけんな場しよを知らせるいみがあるそうです。

この点字ブロックのおかげで、目がふ自由な人もふつうの生活ができるようにくふうされているんだと思いました。

点字ブロックを考えた人は目のふ自由な友だちを交通じこからまもるためにはつめいしたそうです。そこからせかいじゅうに広まっていることを知って、すごいことだと思いました。これから点字ブロックの上を歩いたり、物をおいたりしないように気をつけます。こまっている人を見かけたら、わたしもやさしく声をかけてたすけてあげたいと思いました。

【小学校3・4年生の部 佳作】

わたしのひいおばあちゃん

ひばりが丘小学校3年 振原 汐里

わたしにはひいおばあちゃんが二人います。一人はにんちしょうというびょう気で名前とか何才かもおぼえてくれません。だけど、びょう気のせいなので何でも答えます。わたしが答えるとひいおばあちゃんがえ顔になるのでうれしくなります。

もう一人は、のうこうそくというびょう気で左足と左手が上手く動きません。なので、いっしょに買い物をする時は、手をつないでいます。かいをい動する時はエレベーターを使います。それはひいおばあちゃんの足が上手く動かなくて、こわいと言っているからです。なので、かぞくで買い物など行く時は、ひいおばあちゃんのように体が上手く動かせない人がエレベーターを使えるように、わたしはエスカレーターやかいだんを使いたいと思います。この間、行った時はせ中がいたくてしゃがめないと言っていたので、ゆかそうじをしました「ありがとう。」と言ってもらってうれしかったです。

これからは、お年よりの方がいたら、自分からお手つだいをしたいです。おじいちゃんおばあちゃんがうれしい気もちになれるようにできることをがんばります。

【小学校3・4年生の部 佳作】

でんしゃのできごと

東原小学校3年 大矢 智尋

わたしは、でんしゃの中で体のふじゆうな人にせきをゆずったことについて書きます。

ある日おかあさんとまだちいさいおなかの中にいる弟とわたしがでんしゃにのる前おかあさんと一つのおやくそくをしました。「ハートとばつのマークのキーホルダーをつけてる人がいたらせきをゆずってね。」と言われてでんしゃにのりました。するとせきはあいていました。そこにすわってました。すると人がすごくのってきました。そのなかにおかあさんが言っていたマークつけてる人がいました。その前のせきの人たちがかかわらないのでせきをゆずると声をかけました。「すわっていいですよ。」と言うと、「ありがとうございます。」とお礼を言われ、うれしくなってでん車をおりるとき手をふっておりました。

そしてえきでおかあさんに「やくそくまもれたね。」と言われました。

それからでん車にのっているときは、どんな人がのっているのか気をつけています。みんながせきをゆずるようになったらいいなと思います。

【小学校3・4年生の部 佳作】

ユニバーサルデザインを知って

立野台小学校4年 浅井 歩夢

ぼくは学校の総合の時間で、「福祉」のことを学習しています。最近、ユニバーサルデザインについて知りました。

ユニバーサルデザインとは、すべての人が使いやすいようにしせつや物をつくる考え方だそうです。

ユニバーサルデザインは身のまわりにもたくさんあることを知ったので、電車の駅にも、ユニバーサルデザインがあるか調べてみました。するとトイレの案内ばんに音声がついていて、目が見えない人でも使えるようになっていました。ほかにも駅のホームの点字ブロックもあり、目が見えない人がどこを通ればいいのか分かります。しかもふつうの人でも点字ブロックの内側に居れば安全なので、すべての人が安全になります。

ぼくは、ただあるだけだと思っていたこともユニバーサルデザインと言う名前がついていて、「すべての人が使いやすい」という目的を持って置いていることを知りました。これからもユニバーサルデザインについてもっと調べて深めていきたいです。

【小学校5・6年生の部 佳作】

思いやりの心

座間小学校6年 穴澤 楓

私は、障がい者の人や、お年寄りの人、外国の人など、さまざまな人にもっと寄りそっていけるようにしていきたいと思う。

夏休みに家族で広島に旅行に行った。そこで、ロープウェイに乗るためにチケットを買った。すると、券売機の前にこまった様子の外国人がいた。お父さんとお母さんはその外国人に何かを教えに行っていたが、私は何と言っていたのか分からなかった。後からそのことについてお母さんに聞いてみると、どうやら、券売機に英語が書かれていなくて、こまっていたらしい。しかし、思いやりの心があれば、このようなことがあっても助けることができるのだと感じた。

他にも、買い物に行ったときに、エスカレーターの前で立ち止まっているおばあさんがいた。声をかけると、エスカレーターが速くて乗るのが「こわい。」と言っていた。そのとき、お母さんが「一緒に乗りましょうか。」と言った。その後、おばあさんは無事にエスカレーターに乗ることができ、私はうれしくなった。

このように、全ての人が安全に生活できるように作られたユニバーサルデザインで便利になっている一方で、それが行きとどいていないところがある。だから私は、助け合おうという思いやりの心が大切だと思う。もしも今後、こまっている人がいたときには、思いやりの心を大切にして、

私も声をかけられるようにしたい。そして、思いやりの心が広がって全ての人が暮らしやすい社会にしていきたいと思う。

【小学校5・6年生の部 佳作】

ぼくや君の勇気が大きな力に

座間小学校6年 岡本 碧羽

ぼくのお母さんは、発達しょう害のある子どもの支援をする仕事をしています。発達しょう害とは、脳の働きのちがいにより物事のとらえ方にちがいがあり、そのために日常生活に支障のある状態のことです。そしてそういう人は、意外と身の周りにもいると思います。

このような子どもたちと関っているお母さんに話を聞いてみました。「人というのは、一人一人ちがうから、全員に同じ対応はできない。」と言っていました。しかし、「支援はオーダーメイド。」という言葉があるとも教えてくれました。それは、人は得意なこと、不得意なこと、好きなこと、きらいなことがあるので、一人一人に合った方法をみんなで考えて、成長をサポートするということらしいです。けれどこれは、先生や、せんもんの人がすることです。ぼくたちには、難しいと言っていました。だから、ぼくたちにもできることを教えてくれました。まずは知ること。どんなしょう害があるのか、そしてどんなことが困るか。次に理解しようとする。しょう害をもっている人がよくつけている耳あてやつえ、車いすなども目が悪い人のメガネのようなもので、すべてその人がみんなと同じように過ごすために必要なものなのです。そして思いやる行動。ぼくは、そういう人たちに自分たちでもできることをしたいと思いました。困っているかもしれない人を見つけたら、大じょう夫ですかと声をかけてみたいです。これは

とても勇気のいることだけど、これらのことができれば、
きっと助けられるはずです。

このように、しょう害がある人を助けるには、その人の
ことを知って、理解することが大切なのです。これからは、
困っている人がいたら、勇気を出して、声をかけてみたい
です。

【小学校5・6年生の部 佳作】

一人一人が思いやりをもつために

相模野小学校6年 長峰 和毅

「優先席は、障害のある人しか座ってはいけない。」と、思っていました。でも、その考えを変えるきっかけとなる出来事がありました。

その出来事は去年の一月ごろのことです。その時期は、よく電車を使うことが多かったのですが、その時間は午前中だったので、電車はかなり混んでいました。その中で、優先席だけが空いていましたが、座っていいのか迷いました。でも、朝早い時間だったのでねむさもあったので座ることにしました。座っているときは、「座ってもいいのかな。」と、ドキドキしていました。

次の駅で、つえをついたおじいちゃんが乗ってきました。そのおじいちゃんは、きょろきょろと車内を見ていたので、座りたいのかなと思いました。ぼくは、席をゆずるのはきんちょうしましたが、「席、どうぞ。」と勇気を出して声をかけました。すると、おじいちゃんはニコニコしながら、「ありがとう。」と声をかけてくれました。勇気を出せたこと、おじいちゃんを喜ばせたことに心がふるえました。

優先席とは、障害のある人や小さい子どもをつれた人、妊娠している人やお年よりなど、「弱い立場の人たちが気持ちよく使えるための場所」だと思います。一人一人が思いやりの気持ちをもてば、みんなが幸せで楽しくくらす社会になると思います。ぼくは、これからも弱い立場の人たちへ思いやりの気持ちをもって生活していきます。

【小学校5・6年生の部 佳作】

身近にある福祉の仕事

中原小学校6年 高橋 李緒

私は、福祉の体験をしたことはないけれど、いろいろな所で福祉に関する物をいっぱい見たことはあります。最近では電車やバスを乗って出かけるときがあり、よく見ます。例えば座間駅には、目が見えない人に「電車が来たよ」という合図があります。改札とホームにあります。少し音が違います。他にも小田急線運賃表には、点字ブロックがついていて、目が見えない人が触ることで、行きたい場所の行き方や、そこに行くには何円必要かが書いてあります。これは大体の駅にあり、切符売場の近くある小田急線座間駅構内案内図は、その構内のことが書いています。ボタンを押すとそこに行く方法が音声で教えてくれます。近くに行くと、自動で音声になるものです。それにこの構内案内図は、音声案内図、点字ブロックがついているので、目が見えない人にとってはとても便利です。トイレの案内図もあります。ここは手洗い場だよなどが書いてあります。駅にはあんまり見たことがないと思いますが、筆談機もあります。喋れない人や、耳が聞こえない人は、この筆談機を使って知りたいことを書いて聞きます。もちろん駅員さんも書いて教えます。このように駅にはいろいろなバリアフリーがあります。

私のお母さんは、長年福祉の仕事をやっています。前に足の治療をするために、病院に行ったとき、会計が終わって帰ろうとしていたお客さんが、うまく立ち上がれなかつ

たのをお母さんが見つけて、そのお客さんを助けていました。それに最後お客さんの、スリッパを片付けていました。それを見ていて思ったのは、福祉の仕事をしているから、助けたのではなく、困っている人がいたから助けたのだと思いました。なのでお父さんも福祉の仕事をしていたので、お父さんとお母さんに福祉の仕事のことを聞いて、私もこまっっている人を助けたいと思います。

【中学生の部 佳作】

今の気持ちは？

座間中学校 1 年 下平 結月

今年の二月、私のひいおばあちゃんは倒れてしまった。今も生きてはいるが、心臓が動いているだけ、意識がないみたい。

まえから日常生活が難しくなっていた。その時、手伝い・助けていたのは、私のおばあちゃんでした。おばあちゃんは、私のおばさんと暮らしていて二家族分の家事をしていた。いつもいそがしそうだった。ひいおばあちゃんは、一日に六回ほど食事をしたり二回もお風呂に入るなど、ボケがすすんでいた。私がおばあちゃんに会いに行く時はいつもニコニコしていた。明るくて、元気でおもしろい。そして学校などの話をよく聞いてくれた。おばあちゃんは毎日ニコニコしていると思っていた。でも違うのかもしれない。小学校 6 年生の初めくらいからそんなことも考えるようになった。最近、おばあちゃんから

「毎日大変なのよ。」

と話してくれるようになった。家事の方が量が多いはずなのにひいおばあちゃんの手伝いの方が大変だと言っていた。

私はひいおばあちゃんにどういうお手伝いをしたらよいかも分からない。そのためおばあちゃんがなぜつかれてしまうのか疑問に思った。そこで去年の秋ごろに、おばあちゃんにお手伝いの内容を聞いて私もお手伝いをしてみた。すごく大変だったし、つかれた。でもやりきることができた。それはひいおばあちゃんのことを考えてみることだっ

た。たしかにこのお手伝いはとても大変だ、でもお手伝いをすることによって、ひいおばあちゃんは何事もなく生活できているのかもしれない。ひいおばあちゃんはあるがとうを言わないが、本当は心の中でありがとうと言っているのかもしれない。この事の考えのおかげでやりきることにはできたけど、終わった後につかれがでてきた。おばあちゃんはずごいと思った。やらなければいいのにといいながらその日は終わった。でもよくよく考えると、だれかがやらなければならないことに気が付いた。そうしていると、ひいおばあちゃんがたおれてしまった。今も病院で寝ている。おばあちゃんにお手伝いの仕事が減った。今おばあちゃんの気持ちはどうなっているのだろう。もちろん悲しい気持ちもあるはずだ。しかしどこかに、少し楽になった。という気持ちもあると思う。そしてその気持ちがあわさると、モヤモヤした気持ちになってしまう。

私はおばあちゃんの事を知って思った。高齢者にはお手伝いやサポートが必要になる。でもそれを一人でやるのではなく、みんなで助けてあげることが大切だと思う。私もいつしかサポートをする時がくる。その時は、みんなで助けようと思った。

【中学生の部 佳作】

みんなが幸せになるために

座間中学校 1 年 中島 愛菜

幸せとは、と問うと、みんながみんな同じ答えを出すとは限りません。そんな中でも、私が思い描く幸せは、ちゃんにご飯が食べられて、学校にも行けて、安全な家で十分な睡眠をとれることだと思います。しかし、その生活が続くと、やがてその「幸せ」が、「当たり前」になってしまいます。

それの何が問題なのかということ、もし、今この瞬間に大きな災害が起きて、避難所生活が始まったとしたら、私は、どんな人でも考え方によって、二種類に分かれると考えています。一つ目の考えの人たちは、最初でも話した通り、普通に生活を送れることが、当たり前だと考えている人たちです。ですが、この避難所生活でその当たり前がなくなってしまう、かなりのストレスになると考えられます。一方、二つ目の考えの人たちは、どんなにささいな日常でも幸せだと考える人たちです。このような考えの人たちは、たとえ避難所での生活を送る中でも、小さな幸せを見つけて、多くの人と協力することができると思います。とはいえ、幸せの定義は人それぞれなので、どちらかが正解だと断言するわけではありません。ですが、この作文の題名でもある、みんなが幸せになるためには、後者のような人たちが増えることが効果的だと考えました。

私は、今では普通の日常でも幸せだと感じるようになりましたが、最初からそうだったわけではありません。私が

考えを変えたのは、おばあちゃんの一言でした。二、三年ほど前に、私と弟がおばあちゃんの家泊まりに行った時のことでした。あっという間に夕食の時間になり、おばあちゃんが発した言葉が、

「おいしいものが食べられるだけで、幸せなんだよ。」
でした。この言葉のおかげで、今の自分がいかに恵まれていて、幸せなのかを自覚することができました。

こんな風に、普通の生活を送られるだけで幸せだと感じられる人や、そうじゃない人もいます。もちろん、両者幸せになることが一番なので、私でもできそうなことを考えました。一つ目は、近所の人とすれちがったら、あいさつをすることです。あいさつには、暗い気持ちを吹き飛ばす力があるので、笑顔であいさつができるとその力もさらに発揮します。二つ目は、自分の住んでいる所をよく知ることです。「ここにはこんな店がある」や、「この家にはこんな人が住んでいる」などのことを、ある程度分かっていると、なにかあったときに、協力し合えるかもしれないからです。三つ目は、地域の行事などに積極的に参加することです。道中にあるけい示板などで、いつ、どこで、どんな行事をやるのかを見ておいて、参加してみるのもいいと思いました。

このように、全世界の人たちがいきなり幸せになることは難しいですが、まずは、自分の考え方を客観的に捉えてみて、そこから行動につなげることが大切だと考えました。私も、この作文を書くにあたって、思ったことや考えたことを、どんどん日常に取り入れていきたいと思っています。

福祉推進標語

【最優秀賞】

たすけようより たすけあおうが ふくしかな

東原在住 レスコ 暖

【優秀賞】

みんなとは くらべなくても いいんだよ

栗原小学校4年 香月 由我

手助けしたい してほしい

どちらもどうぞ 声かけて

入谷東在住 岩本 由美子

【佳作】

手をかそう みんなを助ける きせきの手

ひばりが丘小学校4年 清家 壮亮

立ちあがる 勇気をくれた あなたの手

座間在住 清水 隆

言葉かけ 広がり築く 福祉の輪

入谷東在住 山下 孝雄

人の気持ちを考える それは福祉の 第一歩

東原在住 山田 千登勢

【×毛欄】

令和 6 年 8 月

座間市福祉部地域福祉課 作成